



研究者名※	渋谷望	学位※	修士
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	教授
連絡先	shibuyan@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/		
研究分野※	社会学		
研究キーワード※	新自由主義、労働、コモンズ、社会運動、ジェンダー		
共同研究・競争的資金等の研究課題	研究代表者 科研(基盤C):新自由主義的統治としての社会投資国家の批判的分析:予示的共同統治の視座から(2022-) 科研(基盤C):生きられたアナーキズムの文化実践:自律空間の創出とサブシステム(2015-2018) ほか		
社会貢献・産学官連携活動等	・2020-2021年度 一般財団法人教育文化総合研究所「リスク社会と子どもの人権研究委員会」研究委員として研究委嘱。 ・むさしのジェンダーを考える会主催講座講師「格差社会における「男らしさ」・「女らしさ」の変容」(2020年2月)		
受賞歴			

研究領域	文化社会学、社会運動	(SDGs)
研究テーマ※	文化としての新自由主義とそのオルタナティブ	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>研究テーマは(1)文化としての新自由主義の分析と(2)そのオルタナティブな視座の探求という二つの軸からなる。</p> <p>(1)新自由主義統治によって、非正規雇用層が増大するなど格差や貧困が顕在化しているが、他方で、新自由主義は個人や組織——大学を含め——を「企業」に変える「文化」の側面を持つ(フォーコー)。そこにおいて、人や組織は、企業のように「投資」をし(あるいは「投資」の対象となり)、「収益」を上げることが求められる。たとえば奨学金はローンとなり、学生は自分の将来に投資するこの文化を内面化せざるを得なくなる。こうした「新自由主義文化」は協働やケアを始めとする「収益」に還元されない諸実践を「ムダ」とみなす。しかし協働やケアは、セーフティネットでもあり、人間関係や社会そのものを可能にするものでもある。新自由主義は社会を成り立たせるこうした基底的な実践を掘り崩し、私たちの(生)を貧しいものにする。第一の軸はこうした観点からの新自由主義分析である。</p> <p>(2)このような状況を背景に、新自由主義的な(生)に対するオルタナティブな視座が必要となる。このような視座は、脱グローバル化(グローバル・ジャスティス)運動、アナーキズム運動と呼ばれる社会運動におけるさまざまな実践において模索されており、第二の軸においては社会運動論の領域に見いだされる別様の社会のあり方についての視座を検討している。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>90年代以降、アナーキズム運動と呼ばれる若者の運動が台頭してきたが、その運動の「インフラ」となってきたのが、ソーシャル・センターと呼ばれる自律空間の維持の実践運動である。それは、若者たちが、利用されなくなった公共空間を占拠し、芸術、演劇、音楽などの文化を自らの手で創造する試みである。この運動はヨーロッパと北米の大都市で70年代後半から始まり、現在、ジェントリフィケーションの波に押されながらも、アジアの都市にも広がりつつある。</p> <p>ナポリでは2011年を境にソーシャル・センターは市政や労働運動と連携しながらむしろ増殖しつつある。若者たちは、政治実践の一環としてアートなどの文化実践を自分たちの手に取り戻そうとしていた。写真は2019年に訪れたソーシャル・センター、アジエロであり、ナポリ中心部の16世紀の建物が若者によって占拠され、演劇などのアートや政治経済のワークショップなど、創造活動の拠点となっていた。こうした活動に押され、市政は</p>	

民営化されていた水道を再公営化するなど、「コモンズ」として都市を再定義しつつある。



【研究方法の特色】

新自由主義統治を文化的側面、ないしその生きられた次元からアプローチする点、そしてそのオルタナティブとしてコモンズの取り戻しも同様に文化的な側面からアプローチする点に特色がある。

本研究関連  
特許・論文等

- ・渋谷望 2003『魂の労働——ネオリベラリズムの権力論』青土社
- ・渋谷望 2010『ミドルクラスを問いなおす』NHK出版
- ・渋谷望 2011「アントレプレナーと被災——ネオリベラリズムの権力と心理学的主体」『社会学評論』61(4)(日本社会学会)
- ・渋谷望 2012「壊乱的社会費用——尊厳、あるいは原発Ya Basta!」河出書房新社編集部編『歴史としての3・11』河出書房新社
- ・渋谷望 2015「欲望の予示的政治— アクティビズムと想像力」『世界思想』42号
- ・渋谷望 2015「グローバル都市における価値闘争としてのジェントリフィケーション」『日本都市社会学会年報』(33)
- ・渋谷望 2017「ネオリベラリズムとアントレプレナー化する女性——ポストフェミニズムにおける連帯の困難」『経済社会とジェンダー』No.2(日本フェミニスト経済学会)
- ・渋谷望 2020「コンヴィヴィアルな「男らしさ」と新自由主義」『福音と世界』75(4)
- ・渋谷望 2021「フィルムノワールの階級政治」『世界』4月号

共同研究・外部機関  
との連携への期待